

●職場体験

勝浦市内の小・中学校からの依頼により、職場体験を実施しました。合計3件、延べ9名の児童・生徒を対象に、展示解説や理想郷のモニタリング調査、飼育生物の世話など、様々な博物館の仕事を体験してもらいました。



生きものに餌やりをする勝浦市立興津中学校の生徒



飼育生物用の餌を準備する勝浦市立清海小学校の児童

●展示解説・質問対応

野外実習授業以外にも随時研究員が展示解説やバックヤードの案内などを行っています。平成20年度は、17件710名を受け入れました。

(3) 団体対応

平成20年度は、学校の教員研修や公民館、教育委員会、各種サークルなどの団体を対象とした、磯の生きもの観察などの野外活動を計28件958名を対象に実施しました。その他、研究員による展示解説やバックヤードの解説を8件202名を対象に実施しました。



「鴨川青年の家まつり」で実施した体験コーナー

研究員による学校団体を対象とした展示解説

実施日	学校名	参加者数
平成20年 4月25日(金)	鴨川市立天津小学校	75
平成20年 5月15日(木)	東京都小金井市立緑小学校	42
平成20年 5月20日(火)	東京都小金井市立南小学校	82
平成20年 5月27日(火)	東京都小金井市立本町小学校	74
平成20年 6月11日(水)	いすみ市立太東小学校	60
平成20年 6月17日(火)	御宿町立御宿小学校	40
平成20年 6月27日(金)	睦沢町立瑞沢小学校	13
平成20年 7月 3日(木)	鴨川市立大山小学校、主基小学校、吉尾小学校	42
平成20年 7月 9日(水)	長生村立高根小学校	52
平成20年 7月 9日(水)	いすみ市立国吉小学校	24
平成20年 7月10日(木)	長南町立西小学校	21
平成20年 9月10日(水)	勝浦市立清海小学校	25
平成20年 9月18日(木)	いすみ市立千町小学校	30
平成20年10月 9日(木)	勝浦市立清海小学校	12
平成20年10月10日(金)	いすみ市立中川小学校	44
平成20年11月 7日(金)	勝浦市立勝浦小学校	62
平成21年 2月26日(木)	勝浦市立清海小学校	12

各種団体を対象とした野外活動

実施日	団体名	参加者数
平成20年5月17日(土)	千代田区自然教室	82
平成20年6月 4日(水)	生涯大学校外学園	59
平成20年6月 4日(水)	高校理科部会生物部	6
平成20年6月 6日(金)	かんぼの宿勝浦	13
平成20年6月21日(土)	いすみ理科同好会	14
平成20年7月 5日(土)	大多喜町中央公民館	34
平成20年7月 6日(日)	芝山町教育委員会	40
平成20年7月 6日(日)	君津亀山少年自然の家	45
平成20年 7月17日(木)	中央博物館友の会	12
平成20年 7月25日(金)	國學院大学久我山高校	6
平成20年 8月 4日(月)	江東区理科教員研修	16
平成20年 8月17日(日)	勝浦市こども会育成連合会	44
平成20年 8月18日(月)	市原市市津公民館	41
平成20年 8月23日(土)	八千代市村上東小学校PTA	31
平成20年 8月26日(火)	江戸川区立小岩第一中学校理科部	6
平成20年 8月27日(水)	勝浦市立清海小学校教員研修	1
平成20年 9月28日(日)	勝浦市教育委員会	16
平成20年10月11日(土)	県立清和県民の森	42
平成20年10月12日(日)	市原植物研究会	24
平成20年10月18日(土)	千葉菌類談話会	57
平成20年10月19日(日)	NPO法人千年の森をつくる会	25
平成20年10月23日(木)	夷隅農林振興センター	47
平成20年11月 9日(日)	鴨川青年の家	80
平成20年12月27日(土)	東京私立中学高等学校協会	20
平成21年 1月 9日(金)	NPO法人ふるさと文化研究会	100
平成21年 2月28日(土)	千葉環境財団	46
平成21年 3月 4日(木)	君津地域きのこ類生産協同組合	40
平成21年 3月27日(金)	かんぼの宿勝浦	11

(4) 広報

平成20年度に発行した当館の刊行物を下の表にまとめました。

●刊行物



タイトル
千葉県立中央博物館分館海の博物館ニュースレター いそび通信 No.9 (平成19年度版)
収蔵資料展「海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～」リーフレット
収蔵資料展「海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～」展示解説書
収蔵資料展ワークシート「この鳥のなまえは何でしょう？」
マリンサイエンスギャラリー「東洋のガラパゴスー小笠原諸島の海の生きものー」ポスター
マリンサイエンスギャラリー「東洋のガラパゴスー小笠原諸島の海の生きものー」リーフレット
マリンサイエンスギャラリー「東洋のガラパゴスー小笠原諸島の海の生きものー」展示解説書
マリンサイエンスギャラリー展示解説シート1「小笠原の島じま」
マリンサイエンスギャラリー展示解説シート2「東洋のガラパゴス キーワード集」
マリンサイエンスギャラリーワークシート「小笠原のうみのいきものクイズ」
海の生きもの観察ノート8「海の鳥を観察しよう」
千葉県立中央博物館分館海の博物館 平成21年度行事案内



海の生きもの観察ノート8「海の鳥を観察しよう」

海辺の生きものを観察する際に参考となる冊子「海の生きもの観察ノート」を年1号、発行しています。平成20年度は、鳥を専門とする布留川分館長が手がけた「海の鳥を観察しよう」を発行しました。鳥は沿岸、外洋域に広く生息し、その暮らしは海の自然環境や他の海の生きものと密接な関わりを持っています。本冊子では千葉県で見られる鳥たちのたくさんの写真を載せ、種類の識別のポイントなどの解説を載せました。ぜひ、本冊子片手に鳥の観察をしてみてください。

なお、本冊子は、海の博物館ホームページでダウンロードできます。また冊子体は余部がありますので入手ご希望の方はご連絡ください。

●ホームページ

ホームページで、海の博物館の展示内容や行事予定、調査研究活動の内容や収蔵資料などについて紹介しています。平成20年度は68,025件のアクセスがありました。

海の博物館のホームページ <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>

●メールマガジン

海の博物館メールマガジン「海からのたより」は毎月始めに発行されています。展示の更新情報、行事の案内や職員によるコラムなど盛りだくさんです。購読は無料です。千葉県立博物館メールマガジン登録のページ <https://blue.tricorn.net/chiba-muse/mbr1.x> にてお申し込みください。

(5) 館外での講演等

海の博物館研究員は、他機関からの依頼を受けて当館以外の場所でも講演や実技指導を行うことがあります。平成20年度は、下表のような活動を行いました。

実施日	団体名	内容	参加者数	担当
平成20年 9月11日(木)	ホクト生物科学振興財団	野生きのこ観察会	40	吹春俊光
平成20年 9月12日(金)	ホクト生物科学振興財団	野生きのこ観察会	40	吹春俊光
平成20年 9月21日(日)	信州きのこマイスター認定協議会	野生きのこ観察会	13	吹春俊光
平成20年 9月23日(火)	市原市青葉台自治会	講座：房総きのこ今昔	35	吹春俊光
平成20年 9月27日(土)	千葉菌類談話会	野生きのこ観察会	65	吹春俊光
平成20年 9月28日(日)	環境生活部自然保護課	三番瀬生物調査講演会講師・アドバイザー	38	村田明久
平成21年 3月15日(日)	浦安市郷土博物館	海藻観察会	13	菊地則雄

(6) 報道機関対応一覧

取材日	取材元	誌名・番組名等	内容	掲載・放送	担当者
平成20年 5月 2日	(株)ウェザーマップ	(民間気象会社)	アサクサノリについて		菊地則雄
平成20年 5月10日	(株)CNインターボイス	(ビデオ作成)	ノリ養殖について		菊地則雄
平成20年 5月15日	朝日新聞出版	『かがくるアドベンチャー』秋号	キノコの生態について	平成20年10月上旬号掲載	吹春俊光
平成20年 5月21日	千葉日報社	千葉日報	「海の紳士録 ー開館10周年 勝浦・うみはく発ー」	平成20年6月8日～平成21年 3月29日掲載(43回)	各担当 研究員
平成20年 5月29日	千葉日報社	千葉日報	県民の日紹介記事	平成20年 6月8、10日掲載	奥野淳児
平成20年 6月21日	NHK報道局	NHK小笠原諸島返還40周年記念番組	小笠原諸島のサンゴ等の特徴について	平成20年 6月28日放送	立川浩之
平成20年 7月11日	NHK千葉放送局	F Mひるどき情報ちば	収蔵資料展 「海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～」	平成20年 7月11日放送	布留川毅
平成20年 7月27日	千葉テレビ	ウィークリー千葉県	「水中メガネで海の生きものを観察しよう」	平成20年 7月27日掲載	柳 研介
平成20年 8月21日	テレビ朝日	クイズ番組 「クイズ雑学王2時間スペシャル」	イソギンチャクの触手環の収縮・伸長について	平成20年 9月10日放送	柳 研介
平成20年 8月29日	千葉日報社	「千葉日報海の紳士録」 取りまとめ役について	取りまとめ役の紹介	平成20年 9月21日掲載	奥野淳児
平成20年 9月24日	テレビ東京	太一×ケンタロウ 男子ごはん	日本で見られる野生キノコ、毒キノコの割合	平成20年 9月28日放送	吹春俊光
平成20年10月15日	朝日学生新聞社	「朝日中学生ウィークリー」	毒キノコ、キノコの生態	平成20年10月26日掲載	吹春俊光
平成20年11月23日	読売新聞	「海の生きもの」	海の生きものに関するコラム	平成20年11月23日～平成21年 1月25日掲載(10回)	各担当 研究員
平成21年 1月15日	(株)CNインターボイス	「海の恵みと日本人ノリ」	ノリ養殖について	平成21年 3月完成予定	菊地則雄
平成21年 2月24日	千葉テレビ	ニュース番組で報道	マリンサイエンスギャラリーについて	平成21年2月24日以降放送	立川浩之
平成21年 3月 6日	NHK千葉放送局	NHK FM「ひるどき情報ちば」	マリンサイエンスギャラリーについて	平成21年 3月6日放送	立川浩之

(7) 印刷物での海の博物館紹介一覧

取材日	出版元	誌名	内容	掲載
平成20年 6月16日	㈱地域情報総研	かんぼ情報誌	行事案内	平成20年 9月
平成20年 6月21日	千葉県	県民だより 8月号	行事案内	平成20年 8月
平成20年 7月30日	㈱海潮社	京葉銀行情報誌「ゆとり」(秋季号)	博物館の基本情報	平成20年10月
平成20年 8月 4日	昭文社	マッフルマガジン千葉・房総2009	博物館の基本情報	平成20年10月
平成20年 8月19日	サンケイリビング新聞社	園児とママのための情報誌「あんふあん」	博物館の基本情報	平成20年11月
平成20年 9月 3日	シティライフ(株)	無料配布誌「シティライフ+ (プラス)」	行事案内	平成20年11月
平成20年10月 1日	メディア・リサーチ・センター株式会社	雑誌新聞総かたろく 2009年版	博物館の基本情報	平成21年 1月
平成20年10月 3日	株式会社ビッグ・ムーン	東京・関東周辺 家族で遊ぶ600スポット'10年版	博物館の基本情報	平成21年 3月
平成20年12月12日	株式会社エフスタイル びあ制作室	びあ テーマパーク&レジャーランド	博物館の基本情報	平成21年 2月
平成20年12月15日	袖ヶ浦市子どもセンター協議会	情報誌「ガウラ・キッズ」31号	行事案内	平成21年 3月
平成20年12月25日	株式会社旅行出版社	観光バス業者・観光関連施設名簿	博物館の基本情報	平成21年 3月
平成21年 1月 9日	勝浦市	広報かつらう 2月6日号	マリンサイエンス ギャラリー内覧会	平成21年 2月
平成21年 1月15日	千葉県	県民だより 3月号	行事案内	平成21年 3月
平成21年 1月15日	株式会社石田大成社	2009みちしるべ房総	博物館の基本情報	平成21年 4月
平成21年 1月21日	大多喜町	広報おおたき 1月26日号	行事案内	平成21年 1月
平成21年 2月16日	鴨川市	広報かもがわ 3月1日号	行事案内	平成21年 3月
平成21年 3月 3日	日経ナショナル ジオグラフィック社	ナショナルジオグラフィック 4月号	行事案内	平成21年 4月

(8) 電子情報での海の博物館紹介一覧

取材日	取材元	掲載サイト名	内容	掲載
平成20年 4月 4日	(株) 知恵工場ナレッジ	まなび倶楽部「まなびスポットガイド」	施設の概要	平成20年 6月 1日
平成20年 4月18日	(社) 日本環境教育フォーラム	自然大好きクラブ	施設の概要	平成20年 6月 1日
平成20年 9月19日	(株) 地域情報総研	るるぶ、com, JTBサイト	施設の概要と周辺の自然・行事案内	平成21年 1月10日
平成20年 9月24日	(株) ファイネックス	訪日教育旅行観光資源リスト	施設の概要	平成20年10月 1日
平成20年11月12日	(株) トヤマデータセンター	千葉情報ナビimpulse	施設の概要	平成20年11月 1日
平成20年11月12日	(株) エスティフ	株式会社角川クロスメディア版『Family Walker』	施設の概要	平成20年12月 1日
平成20年11月26日	Let's Enjoy Tokyo事務局	Let's Enjoy Tokyo	施設の概要と行事案内	平成20年12月 1日
平成21年 2月25日	インターネットミュージアム事務局	インターネットミュージアム	施設の概要と行事案内	平成21年 3月 1日
平成21年 3月 1日	(株) 知恵工場ナレッジ	まなび倶楽部「イベント情報」	施設の概要と行事案内	平成21年 3月 6日
平成21年 3月17日	協同組合インフォメーションテクノロジー関西	イベント・行事情報	行事案内	平成21年 3月20日
平成21年 3月18日	さわやかちば県民プラザ	ちばりすネット	行事案内	平成21年 3月25日

3. 資料収集活動

海の博物館では、千葉県周辺海域を中心に、海の自然誌に関する資料を収集しています。それらの資料は、県民共有の財産として保管、管理するとともに、展示や教育普及活動など、各種の博物館活動に活用しています。

(1) 職員による資料収集

海の博物館では、県内各地で海の自然誌に関する資料の収集を行うとともに、千葉県産資料との比較のために、県外地域においても同様の収集活動を行っています。

県外での資料収集は、平成19年度から日本海側で行っています。20年度は石川県能登半島において、「のと海洋ふれあいセンター」の協力を得て、5月13～16日に、菊地、村田の2名の研究員が、藻類や無脊椎動物を収集しました。また、3月1～3日に、菊地が藻類の補足調査を行いました。



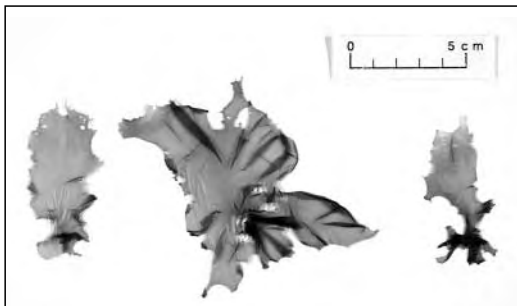
能登での採集風景

(2) 提供資料の受入

平成20年度は、地元勝浦市の漁業者を中心とする19名の方から36件84点の資料を提供していただきました。内訳は、魚類が31点、刺胞動物が16点、甲殻類が13点、棘皮動物が10点、鳥類が5点、環形動物が3点、カイメン動物と貝類が各2点、頭足類とヒラムシ類が各1点でした。その他、千葉県立安房博物館から貝類など海の動物の標本2,596点の提供がありました。

収集資料の紹介

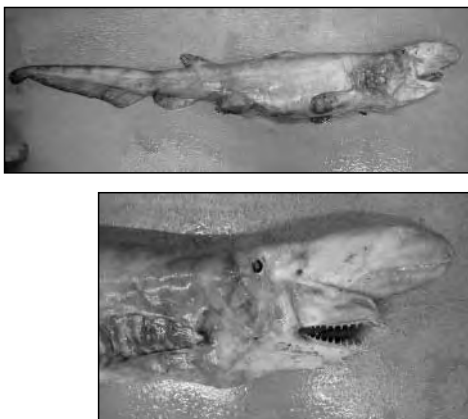
能登半島のツクシアマノリ *Porphyra yamadae*



県外での資料収集で訪れた能登半島の珠洲市で、乾海苔の原料となる紅藻アマノリ属藻類の一種が採集され、形態およびDNA解析の結果からツクシアマノリであると判明しました。過去に能登半島でも採集された記録のある種類ですが、今回の調査で確実な生育が確認されました。本種は、九州から南西諸島およびそれ以南の暖かい地域に多く分布する種類で、能登半島は分布の北限域と考えられました。

収集資料の紹介

ミツクリザメ *Mitsukurina owstoni*



2009年3月、南房総市の富山町漁業協同組合の漁師さんより、生きた化石として有名なミツクリザメ2個体が網にかかったとの連絡をいただき、引き取りに伺いました。採集した漁師さんのお話では、岩井沖の水深100メートルあたりに仕掛けた、ヒラメ漁の「ななめ網」にかかったとのこと。今回の2個体だけでなく、これまでもたびたびミツクリザメが網にかかっていることを見たことがあるそうです。このサメは世界的にみると個体数があまり多くないのですが、岩井から保田にかけての東京海底部には多産することが知られています。

(3) 資料登録点数

平成20年度は、新たに943点の資料を登録しました。これによって開館以来の登録点数は、55,568点となりました。(平成21年3月31日現在)

資料名	本年度収集	累計
海綿動物	0	290
刺胞動物	129	4,972
環形動物	0	2,067
貝類	43	8,311
頭足類	1	234
甲殻類	168	2,418
棘皮動物	26	1,491
その他の無脊椎動物	21	328

資料名	本年度収集	累計
魚類	0	14,041
藻類	101	6,335
種子植物	3	66
写真資料	432	12,215
動画資料	0	1,064
図書資料	19	1,736
合計	943	55,568

(4) 資料の貸し出し

平成20年度は、研究用として13の機関に177点の標本を、展示用として3つの機関に33点の資料をそれぞれ貸し出しました。研究用は、鹿児島大学総合博物館、北海道大学大学院水産科学研究科などが主な貸し出し先で、標本の内訳は、魚類が143点、甲殻類が13点、棘皮動物が12点、刺胞動物が7点、貝類と環形動物が各1点でした。展示用としては、千葉県立安房博物館にクジラの歯等の標本9点と写真1点を、島根県立宍道湖自然館に甲殻類標本5点を、岩手県立博物館にイソギンチャク等の写真16点と映像2点を貸し出しました。

4. 調査研究活動

海の博物館では、海の生きものに関する調査研究活動を積極的に行っています。そして得られた成果を論文などの形で公表し、学術分野に貢献するとともに、展示、教育普及活動で活用することによって、一般の皆様にも還元しています。

(1) 研究員による調査研究

海の博物館では、房総半島周辺海域の海洋生物相とその特徴を明らかにすることを目的に、各研究員が一体となって行う「総合分野」の研究と、各研究員の専門分野をより深く研究する「詳細分野」の研究の2つからなる調査研究活動を行っています。総合分野研究では魚類班、無脊椎動物班、藻類班の3班に分かれ、今年度は、特に東京湾奥部に重点を置いた調査研究を行いました。詳細分野研究は、各研究員が以下のようなテーマで行っています。

- 吹春俊光「海岸性大型担子菌類に関する研究」
- 奥野淳兒「日本産共生性コエビ類の分類学的研究」
- 柳 研介「イソギンチャク類(刺胞動物門:花虫綱)の分類学的研究」
- 立川浩之「日本産イシサンゴ類の分類・生物地理に関する研究」
- 菊地則雄「原始紅藻亜綱植物の分類学的、生態学的研究」
- 村田明久「フジツボ類の繁殖生態に関する研究」
- 大久保守「南房総を訪れた洋画家に関する研究」

(2) 他機関等との研究交流、外部助成金等

海の博物館独自で行う調査研究の他に、他機関の施設を利用したり、専門の異なる他機関の研究者と共同で行う研究や、外部助成金を得て行う研究も積極的に推進しています。平成20年度は以下のような共同研究や外部助成金を得ての研究を行いました。

のと海洋ふれあいセンターとの
共同調査

研究課題：九十九湾周辺を中心とした能登半島の海藻・無脊椎動物相
当館の研究分担者：菊地則雄、村田明久

千葉大学海洋バイオシステムセンター
共同研究

研究課題：外房浅海域の花虫類相の解明
当館の研究分担者：柳 研介、立川浩之

千葉大学海洋バイオシステムセンター
共同研究

研究課題：外房浅海域の吸盤垂目多岐腸類の分類学的研究
当館の研究分担者：奥野淳兒

独立行政法人海洋研究開発機構共同研究
船淡青丸共同利用

研究課題：東日本沖合太平洋における深海動物相の解明と海洋汚染の調査研究
当館の研究分担者：柳 研介

独立行政法人国立科学博物館
プロジェクト研究

研究課題：相模湾産底生無脊椎動物の起源探索
当館の研究分担者：立川浩之

地球規模生物多様性情報機構の活動

研究課題：富山市科学博物館に収蔵されている国内産エビ類標本の同定
当館の研究分担者：奥野淳兒

(3) 館外活動

海の博物館の研究者は、その専門性を活かして他機関等からの依頼により、外部委員を務めたり、講義などを行っています。平成20年度は、布留川が勝浦市公民館運営審議会兼市民会館運営審議会委員を、吹春が千葉県レッドデータブック改訂委員会委員を、奥野が日本動物分類学会選挙管理委員会委員長を、菊地が第9回国際藻類学会議実行委員を務めました。

新たに見つかった種類



スミレヒメホンヤドカリ *Pagurixus purpureus*

足を広げた幅が1cmほどの小さなヤドカリで、伊豆大島から屋久島にかけての南日本とパプアニューギニアから知られています。はさみは赤紫で、歩脚にも同じ色のストライプが走り、第1触角はスミレ色を呈しています。この美しいヤドカリは、最近ダイバーによって発見され、2008年3月に当館資料管理研究科の駒井智幸博士と海の博物館の奥野によって新種として記載されました。このヤドカリの容姿を見事に表した和名は、水中でこのヤドカリを何度も観察しているダイバーに考えていただきました。

(4) 研究成果公表一覧

学術論文、学術書

吹春俊光

Yagame, T., T. Fukiharu, M. Yamato, A. Suzuki and K. Iwase. 2008. Identification of a mycorrhizal fungus in *Epipogium roseum* (Orchidaceae) from morphological characteristics of basidiomata. *Mycoscience*, 49: 147-151.

奥野淳兒

Okuno, J. 2007 (2008). Annotated checklist of stenopodidean shrimps (Crustacea: Decapoda) from the Dampier Archipelago. *Rec. West. Austr. Mus., Suppl.*, (73): 57-59.
Okuno, J. 2009. *Cuapetes* Clark, 1919, a senior synonym of *Kemponia* Bruce, 2004 (Crustacea: Decapoda: Palaemonidae). *Zootaxa*, 2028: 67-68.